

— 第2段 —

救急電話相談の 現況と今後の展望

開催趣旨

全国で展開されている「救急電話相談(#7119等)」は、市民の救急受診行動に大きな影響を及ぼす社会的インフラとして定着しつつあるが、相談体制や教育、運用方法には地域差が存在する。また、電話相談における「緊急度判定」の精度や、相談員である看護師、医師の役割、教育体系の標準化、さらにAI支援など新たな技術導入に関する課題も顕在化している。本シンポジウムでは、2019年度に実施した同テーマの討議を継承し、現在の運用状況や教育・技術の進展を踏まえて議論を深め、救急電話相談の質向上と持続可能な体制のあり方を多職種で検討する。

2026年4月11日(土)
12:30~17:00 (予定)

開催場所

東京都医師会館2階講堂

東京都千代田区神田駿河台2-5 (JR線 御茶ノ水駅 下車徒歩5分)

開催形式

現地開催 (後日アーカイブ動画をWeb配信予定)

対象

電話相談に係る方、係る予定の方(多職種)

PROGRAM (案)

基調講演 救急医療電話相談体系の軌跡 森村 尚登 (日本臨床救急医学会代表理事)

第1部 看護師業務と教育の進展

テーマ 「救急電話相談における看護師業務の現状と教育体系の標準化」

- ・ 院内電話相談トリアージのアンケート調査結果に基づいた現状と課題についての話題提供、教育体制整備、データ蓄積の必要性について、等を予定。

第2部 医師・運営者・AIの関わり

テーマ 「医師の関与とICTによる相談支援の未来」

- ・ 救急電話相談における緊急度判定の精度向上、医師の役割、相談センターの運営、AI/アルゴリズム活用、相談データの利活用の総合的検討、またAI支援の制度・技術・実務の交点を議論、等を予定。

参加費は無料です。下記URLもしくはQRコードよりご応募ください。

(2026年2月初旬頃より応募開始予定)

https://jsem.me/news/post_96.html

